

## 2021年度第20回女性生産者交流会報告

- 11/12（金）13:30～16:15 女性生産者交流会が zoom を使用したオンライン形式で行われました。合計 87 名の参加があり、生産者 15 産地 34 名、東京 3 名、神奈川 5 名、千葉 4 名、埼玉 5 名、茨城栃木 4 名、山梨 4 名、群馬 4 名、福島 5 名、静岡 3 名、新潟 3 名、産直事業本部 4 名、その他消費者幹事が参加しました。
- 静岡望月幹事の進行により、開会挨拶として大津代表幹事から「産地の現状や気候変動についての報告、農家は自給自足が原則であること、他に頼らない持続可能な農業について、来年度は産地で開催することについて」など話されました。また、交流政策室 安原室長より「2021 年上半期の状況と下期に向けて」報告がありました。
- 第 1 部では、生産者と消費者との交流会を行い 8 グループに分かれ、消費者幹事には各グループのファシリテーターとしてまとめて頂きました。テーマは「くらしの課題」ということで、それぞれのグループのテーマについて、余剰野菜について、野菜の保存方法、鳥獣被害、コロナ禍での産地の工夫、食品ロスのこと、農産物の品質や食味のこと、オンラインやリモートの対応について、コロナ禍で変化した身近なことなど幅広く意見交換や情報共有などが行われ、各ファシリテーターより発表されました。
- 休憩時間ではありましたが、産地を知るきっかけになるよう産地ならではのレシピ紹介を消費者幹事たちが実際に調理をして感想やコメントをする場面を設定しました。産地から寄せて頂いた 15 レシピは、1 つにまとめて参加された皆さんに配信しています。
- 第 2 部では、生産者同士の交流会として、4 グループに分かれフリートークを行いました。お互いの産地の様子、農産物に関わる情報交換や地域への取り組みについてなど、共通する課題などにおいてはアドバイスや意見交換など積極的に行われていました。その中では、実際に会って交流をしたいという声が多く聞かれました。
- 最後に渡部副代表幹事より、昨年に引き続きオンラインの開催となったが、なかなか会えない中でも少しでも交流が深められるように生産者と消費者、生産者同士の 2 部構成での実施となったこと、産地の課題を生産者と消費者が共有できたこと、こうした繋がりを重ねて、ぜひ来年も開催したいと話され閉会となりました。

▼女性生産者交流会オンラインの様子

